

実験的行動分析京都セミナー

オペラント条件づけ研究のインスツルメンテーション：回顧と展望

1930年代初期から始められたスキナーによる行動研究は、様々な実験装置の開発・工夫を通して、やがてオペラント条件づけの研究へと進展し、現在のオペラント実験箱とその周辺装置からなる実験方法が確立した。本セミナーでは、このような研究法の変遷を振り返り、実験装置の開発と研究の進展が密接な関係にあることを跡づけ、今後の行動研究における研究法の展望を行う。全6回のセミナーの最終回（第6回）になる。

第6回 子どもを対象とした実験のインスツルメンテーション

日時：2015年3月28日（土）

場所：立命館大学衣笠キャンパス末川記念館第2会議室

司会：伊藤正人（大阪市立大学）

講演プログラム

- 14:10-14:20 伊藤正人「子どもを対象としたオペラント条件づけ研究の意義」
- 14:20-15:00 空間美智子（神戸学院大）「子どもを対象とした実験装置の変遷」
- 15:00-15:40 伊藤正人「トークンを強化子とした同時選択手続きの開発」
- 15:40-15:50 休憩
- 15:50-16:30 嶋崎まゆみ（兵庫教育大）「発達障害児を対象とした実験方法」
- 16:30-17:00 総合討論

セミナー終了後、懇親会を用意しております。皆様、どうぞご参加ください。

世話人：伊藤正人・藤 健一・青山謙二郎

幹事：吉岡昌子・空間美智子

第1回 行動パターンを記録する：累積記録器の誕生と発展

2012年12月1日（土）終了（概要は、日本行動分析学会ホームページ掲載の第1回京都セミナー報告をご覧ください）

第2回 実験空間を構築する：実験箱（スキナー箱）の誕生と発展

2013年3月30日（土）終了（概要は、日本行動分析学会ホームページ掲載の第2回京都セミナー報告をご覧ください）

第3回 強化子呈示を自動化する：給餌装置の開発

2013年11月30日（土）終了（概要は、日本行動分析学会ホームページ掲載の第3回京都セミナー報告をご覧ください）

第4回 変動性を実現する：強化スケジュール研究におけるタイマーとカウンター

2014年3月29日（土）終了（概要は、日本行動分析学会ホームページ掲載の第4回京都セミナー報告をご覧ください）

第5回 成人を対象とした実験のインスツルメンテーション

2014年11月29日（土）終了